



# はるあけび

●医療法人創和会広報誌はるあけび / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博  
令和5年3月1日発行

## 本館3階病棟が一般病棟から 地域包括ケア病棟になりました



しげい病院 看護部 課長 林 昌子

1月よりしげい病院の本館3階病棟は一般病棟から地域包括ケア病棟に機能を変更しました。今までは、看護配置基準7：1の急性期一般入院基本料1を算定していましたが、2022年の診療報酬改定により、施設基準の看護必要度の基準を満たすことが困難となったためです。

これまでのしげい病院の病棟は、一般病棟1病棟、回復期リハビリテーション病棟2病棟、医療療養型病棟1病棟、障害者施設等病棟2病棟で編成されていました。一般病棟であったときは、基本的に臨時や時間外の入院を本館3階で受け入れ、その後、入院目的に合わせた病棟へ患者さんに転棟していただくシステムになっており、毎月15名程度の患者さんを次の病棟へ送りだしていました。地域包括ケア病棟では在宅復帰率72.5%以上という施設基準を満たさなくてはならないため、転棟を行わないよう、地域連携室や外来部門と連携して入院受け入れを行っていきたいと思います。また、60日という入院期間中に治療、リハビリテーション、介護サービスの調整を行い患者さんご家族が安心して自宅などへ退院できるよう援助するために、今まで以上に医師・退院支援看護師やリハビリテーションスタッフ、薬剤師や管理栄養士など多職種との連携が大切になります。早期から患者さんやご家族のニーズを把握

し、目標を立てて計画的に援助していくことができるように、入院時からチームで関わることができるよう努めていきたいと思えます。大半の高齢の患者さんは、なんらかの治療や介護が必要な状況にあります。在宅での生活が少しでも不安なく過ごせるように、個別性に合わせた援助が行えるよう経験を重ね学んでいきたいと思えます。安心して退院してもらえるように患者さんやご家族としっかり関わり、退院の時に「退院おめでとうございます」と声かけができるような退院支援をスタッフ全員が行えるようになりたいと思えます。

本館3階の病床は41床ですが、本館3階の役割として2020年12月より病棟の中に透析患者さん専用のCOVID-19対応病床を稼働させています。対応病床をエリアで分離しているため、通常入院病床は25床が満床です。自院の外来透析患者さんや、地域の急性期病院からも緊急入院のご依頼にお応えできるよう、60日という期間のなかでもタイミングを逃さないように退院支援を行い、スムーズな受け入れができるようにしていきたいと思えます。

COVID-19の対応も今後変化してきますが、柔軟に対応できるような病棟になりたいと思えます。

# この人紹介 !!



開院以来一貫して慢性腎不全の治療に取り組み、透析専門病院として最適の医療を追及してきた医療法人三祥会 幸町記念病院。今回は、透析専門病院として思い描く理想の姿、そして共に働きたい医師像について、院長の宮崎雅史先生に伺いました。



▲幸町記念病院 HP

2023年1月に行った民間医局コネクトのインタビュー記事より抜粋しています。

**Q：まずは先生ご自身のことをお伺いします。  
宮崎先生が医師を目指したきっかけを教えてください。**

小さいころから人の役に立つ仕事をしたいな、というのが漠然とありました。はっきりと医者になろうと決めたのは、高校の卒業が近くなってからです。進学先は岡山大学の医学部で、そのまま大学院に進みました。

**Q：幸町記念病院の院長にはどういった経緯で就任されたのでしょうか？**

元々の専門は消化器外科でしたが、大学院での研究テーマが当時出始めの膜型血漿交換でした。研究と同時に幸町記念病院（当時、幸町病院）の前院長である國米欣明（こくまい・よしあき）先生の元で透析のアルバイトをし、そこで習得した透析の技術を研究に活用していました。

その後学位を取り、愛媛県の済生会西条病院に



赴任しました。そこでは外科と透析室を任されていたのですが、5年ほど経ったころに國米先生から病院の後を継がないかというお話をいただいたんです。そこで岡山県に戻ることを決め、幸町記念病院に入職しました。それが1993年のことです。病院経営については経験がなかったですし、今思うと大きな決断だったのですが当時は案外さりと決めましたね。

**Q：幸町記念病院の特徴を教えてください。**

1番は透析専門病院であること。そして入院病床があるということですね。通院が不可能になったときに、入院施設のある透析病院というのは患



者さんにとって心強い存在であると考えています。地域の診療所やクリニック、病院あるいは療養担当施設等との連携が緊密で、合併症に対しても迅速な医療連携で対応しています。

また、当院は日本透析医学会の認定施設です。私と常勤医師である高津成子副院長、岡良成先生の3人は指導医でもあります。常勤の先生方は人柄も良く患者さんからも慕われています。長く一緒に働いているとても信頼のおける方々です。

**Q：2004年に新築移転されたとのことですが、新しく病院を建てるうえでこだわった点はありますか。**

通常は患者さんと職員の動線が交わらないようにするかと思います。ここではあえて適度に動線が交差するようにしています。職員と患者さんが顔を合わせる、目を合わせる機会があるようなレイアウトなんです。1階ではロビーを中心に検査室や薬局、事務室があり、3方向の入り口のどこから患者さんが入っても職員が確認できるようになっています。

また、医師だけでなく職員全員で患者さんを気にかけてられるように、窓やガラス張りになっている部分も多いです。陰で患者さんが倒れてしまったとき誰も気が付かないということがないようにしています。病院全体が開放感のある、陰のない



明るい雰囲気になっていますね。

**Q：医師を募集するうえで、どのような医師と共に働きたいと考えていらっしゃいますか？**

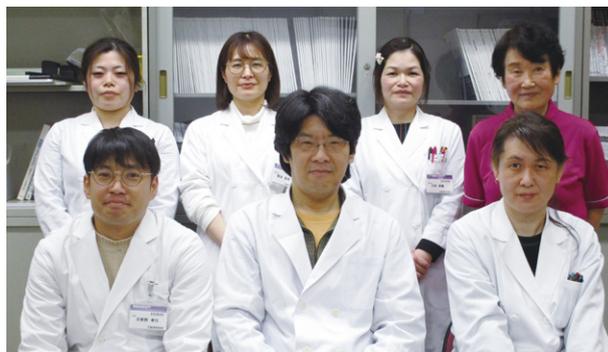
新しいことをやっていただけるパワーのある方に来ていただきたいと思っています。そのひとつに手術もありますし、いろいろな患者さんに対するアプローチというものもあります。

理想としては、シャント手術にも対応できる先生を充実させていきたいです。私の持論として透析を行う医師はシャント手術もできなくていけない、というのがあります。その点で当院は現状遅れをとっている状態ですので、経営者としての立場からも、腎臓内科と外科手術と両方できる若い先生、数人に入っていたいただきたいと考えています。

また、腎臓内科医の先生に入っていて、保存期からしっかり関わっていただきたい。現在、当院ではすでに導入された患者さんをお受けするというパターンが多くなってきています。透析専門病院としては、本来、保存期からしっかり関わっていただけるようになるのが理想です。ですので、腎臓専門医に入っていて、導入前の段階から最後までしっかり診ていただきたいですね。



# 重井医学研究所 活動報告



研究所は腎臓疾患の病態解明を目指し日々研究を行っています。具体的な研究内容は、「新たなゲノム編集技術を用いた腎臓病モデルラットの開発」「アルポート症候群実験動物モデルラットの作製と腎臓病の病態の解明」や、「急性腎不全モデルマウスにおける腎線維化の分子メカニズムの解明」「糖尿病性腎症モデルマウスを用いた分子遺伝学的解析」「腎炎発症のメカニズムの解明とそれに関わる遺伝子の探索」「常染色体優性多発性嚢胞腎に関する細胞生物学的解析」などです。

私たちは、受精卵を体外に取り出さずに遺伝子改変ラットを作製できる手法、rGONAD (Rat Genome-editing via Oviductal Nucleic Acids Delivery) 法の開発に世界で初めて成功しました。論文発表後すぐに、多くの国内外の研究機関から、講演・デモンストレーション・共同研究の依頼があり、これまでに、22回の講習会(内4回は海外)、20回の招待講演(内4回は海外)を行ってきました。2020年度以降、コロナ禍により自由な研究活動が制限され、十分な活動を行うことができませんでした。この状況が落ち着き次第、2023年度は、rGONAD法の講演会・講習会など積極的に行っていきたいと考えています。

また研究所では、これまで腎臓病、肥満や高血圧などの疾患モデル動物であるラットに着目し研究を行ってきました。進行性の遺伝性腎臓病であるアルポート症候群のモデル動物作製を目指し、私たち

が開発したrGONAD法を用いて、アルポート症候群の原因遺伝子である4型コラーゲン遺伝子改変ラットの作製に成功しました。このラットを解析した結果、ヒトのアルポート症候群と同様の病態を示すことが明らかになり、今年度、日経産業新聞朝刊(2022年3月31日)・山陽新聞朝刊(2022年8月5日)にも大きく取り上げられました。現在、このrGONAD法によって作製された腎臓病モデルラットを使って、アルポート症候群の病態進展の解明や、この遺伝病に対する治療法の探索を進めています。

2022年度は、難波副主任研究助手が「ゲノム編集を用いた腎臓病の病態解明と治療法の開発」という研究題目で公益財団法人寺岡記念育英会から、また古家野主任研究員が「多発性嚢胞腎における進化的に保存された分子Pkd2の機能解明」という研究題目で公益財団法人両備聖園記念財団から、さらに松山部長が「ゲノム編集を用いた腎臓病の病態解明と治療法の開発」という研究内容で公益財団法人ウエスコ学術振興財団から、それぞれ表彰を受けました。

他の研究機関との共同研究も積極的です。2023年2月現在における共同研究は、東京大学・京都大学・名古屋大学・東北大学・大阪大学・岡山大学・香川大学・鳥取大学・群馬大学・基礎生物学研究所・順天堂大学など20以上の公的機関にのぼります。また岡山大学医学部にも引き続きゲノム編集などの実験技術の指導を行っています。

地域貢献として、松山部長は、岡山実験動物研究会の理事運営、岡山大学医学部の非常勤講師などを務めました。また、2020年10月から鳥取大学医学部の客員教授に就任しました。さらにコロナ禍の中でも、岡山操山中学校や倉敷青陵高校の生徒と職場体験学習、小児療育部との科学教室を通してさまざまな地域の人達と触れ合うことができました。今年度もコロナの影響で地域貢献も難しいところがありましたが、来年度こそ研究所内外を問わず研究・地域貢献活動を行い、創和会全体の発展に貢献できればと考えています。

## 腎臓難病アルポート症候群 ラットで再現成功

重井医学研究所 病態解明進める

松山誠研究部長

難波真澄研究助手

正常な糸球体

重井医学研究所(岡山南区山田)は、遺伝子を自在に改変するゲノム編集技術を用いて、先天性の腎臓の難病・アルポート症候群をラットで再現することに成功した。同症候群の患者は国内に1200人程度いるとされるが、根本的な治療法はない。病態を解明し、早期の診断法と治療法の開発を目指している。

アルポート症候群は遺伝子の異常によって、血液をろ過して尿を作る糸球体が破壊される病気。男性の方が進行が早く、平均で25歳ぐらいで末期の腎不全となり、人工透析や腎臓移植が必要とされる。

その結果、健康なラットの平均寿命は2〜3年だが、オスは生後28週までに全て死んだ。人間なら20〜30歳に相当するとい

初期は自覚症状に乏しく、進行してから気付くことが多い。松山誠研究部長と難波真澄副主任研究助手らのグループは、医学研究で一般的に用いるマウスに比べ、ラットはおよそ10倍の大きさがあり、尿検査や血圧測定をより正確に行えることに着目。独自に開発したゲノム編集技術を使い、4型コラーゲンと呼ばれる特定の遺伝子が働かないようにして病気を発症させた。

松山部長は「研究成果を挙げ、透析や移植をせざるを得ない患者を減らしたい」と話す。(二羽俊次)

研究によると、動物実験で症候群の再現に成功したのは世界初。成果は英国の学術誌で紹介された。今後、病気の進行具合を追跡し、どの段階でどういった検査をすれば精度の高い診断をすることができると、どのような薬が有効かを調べる。

松山部長は「研究成果を挙げ、透析や移植をせざるを得ない患者を減らしたい」と話す。(二羽俊次)

▲ 2022年8月5日付 山陽新聞朝刊に掲載されました

## 外来フロア・透析センターが明るくなりました

研究所附属病院 事務部 総務課 小笠原 裕之

この度、外来棟1階の外来フロア・薬局内や2階の透析センター周辺、3階のANNEXエリア、立体駐車場等の照明をLEDに交換しました。半導体不足により照明器具が届かなかったこともあり、半年以上の施工期間を要してしまいましたが、各部署に光色（電球色・白色・昼白色）の希望を確認しながら、仕事のしやすい環境を整えることができました。

工事した器具は約450器・交換したLEDの直管は約850本におよび、環境や電気使用量削減に貢献することができました。電気使用量は年間約124,000kWh、CO2排出量は年間約66,000kg削減でき、これは500mlペットボトル6,600万本分に相当します。

今回の工事で大変だったのは薬局で、天井の骨組みからやり直す大がかりな物でした。工事は土曜

日の夜から日曜日にかけて行いました。天井を落とすので、薬品や機械に埃や塵が入らないようにこれでもかというぐらい養生をしてもらい、スプリングラダーを弾くこともなく無事に終わることができました。これは業者さんの経験と技術の賜だと思います。

現在電気代高騰の中、LEDに交換できたことで少しでも電気代削減に貢献できたと思います。今後も環境に配慮しつつ、職場の環境整備に努めて参ります。



▲写真ではわかりにくいですが、とても明るくなりました！

## コグニサイズ促進協力施設認定証が届きました

はあもにい倉敷 フィットネスチーム チーフ 池田 彩

国立長寿医療研究センターから、はあもにい倉敷の「コグニサイズ促進協力施設認定証」が届きました。認知機能測定ソフト「NCGG-FAT」の利用実績が30件を超えた施設に申請資格が与えられるもので、先日申請を行い、現在はあもにい倉敷にて掲出しております。

岡山県下では2番目の認定とのことで、近日中に長寿研のHPに施設名と簡単な紹介コメントが掲載される予定です。

コグニサイズの講座を継続してご利用くださっている受講生の方からも、「これからも続けていきたい」「みんなで行うのは楽しい」など嬉しいお声をいただいております。また、iPadを使用して行う「NCGG-FAT」の認知症機能測定はとても好評で、現状の把握や講座を続けること、日常でコグニサイズを行うことへのモチベーションに

なっているように感じます。

昨年5月にスタートしたコグニサイズ講座も4月より第4期を迎えます。より多くの方に受講していただき、楽しい時間を一緒に過ごせることを目指し取り組んでまいります。



▲認定証と一緒に、講座担当メンバーで記念撮影

# しげい病院 SNS2022 ベストショット!!

## しげい病院 YouTube

ついにしげい病院でも YouTube チャンネルを開設しました。記念すべき第1弾はコグニサイズ解説動画でした。公開したものなかなか閲覧数が増えなくて、ユーチューバーはすごいと思います。撮影や編集に時間がかかるため現状では更新頻度は少なめですが、温かく見守っていただければありがたいです。(松田)



## しげい病院 Facebook・Instagram

ベストショットは緑のカーテンと迷ったのですが、リハビリテーション部の医療安全標語はちょうどサッカーワールドカップの時期とも重なったこともあって、面白い投稿になったと思います。(松田)



素敵に加工してもらいました!



## リハビリテーション部 Instagram

リハビリテーション部の Instagram では、患者さんの作品や部内の活動、ちょっとしたほっこりする出来事など日々の様子を通所のリハビリスタッフと協力して更新しています。今年のベストショットは、リハビリテーション部の考えた医療安全標語が院長賞に選ばれた際の投稿です。引き続き、心温かくなる投稿を発信していきたいので、いいね!とフォローをよろしくお願いします。(林・佐藤)

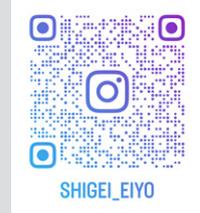


▲撮影の様子

## 栄養管理部 Instagram



栄養管理部の Instagram では、行事食や実習生のデザートなど料理の写真を中心に投稿しています。2022 年度は軟々菜食の新メニューと業務改善に力を入れました。また、4月には新人の管理栄養士が一人、6月には調理師が一人加わりました。これからも新しいことにチャレンジしながら、皆さんに楽しんでいただけるよう様々なものをアップしたいと思います。(秋山)



## 2023 年春夏期新規講座のご紹介

はあもにい倉敷 チーフ 浅田 瑞恵

2023 年春夏期の新設講座をご紹介します。

マクラメ編みでは手でひもを結んで模様を生み出し、おしゃれなアイテムを作ります。ギャザリング寄せ植えでは、花束のように植え込んだ寄せ植えが作れます。CHOLEOLOGY by SALSATION® では、ヒットナンバーに合わせてポップスターのように踊れるプログラムを提供します。

また、講師や講座内容を一新してスタートするものがいくつもあります。好評をいただいている子供向けのプログラミング・毛筆硬筆入門は、体験会を予定していますのでぜひ参加していただければと思います。

大人向け講座は、コロナ禍で開講を見合わせていた中国茶・コーラスが再開します。コーラスは男女とも参加可能で、パートに分かれて歌います。ストレス発散としても大きな声で歌うのは効果的ですね。木曜日の午前中になりますので、お休みの合う方はぜひ参加してみたいかがでしょうか。

更に 20 年以上続いている写真教室も、講師を一新します。日本全国・世界で活躍する写真家が、新しい手法で指導します。今までの受講者の方ももちろん、写真好きな若い年代の方にも楽しく参加いただける内容になっています。

好評につき増設するバレエストレッチなど、多彩なプログラムが揃いました。暖くなる季節に、新しい習いごとを始めてみませんか。



▲マクラメ編み



▲ギャザリング寄せ植え



▲ CHOLEOLOGY by SALSATION®



▲写真教室



はあもにい倉敷  
HP

### 【福利厚生施設としてご利用いただいています】

創和会グループの福利厚生制度（約 70 人が利用中）に加え、倉敷中央病院の健康保険組合や倉敷市勤労者福祉サービスセンターの助成制度を利用し、約 60 名がご利用中です。2019 年秋に岡山県病院協会の福利厚生施設利用割引制度の対象施設となり、延べ 66 名にご利用いただきました。

はあもにい倉敷は医療法人創和会グループの健康増進施設です。

## 催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「笑う山の花めぐりを楽しむ」

日時：3月26日（日）

10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

## 編集後記

●コロナ禍の影響で、以前よりも自宅で飲む機会が増えてきました。ここ最近ではほぼ毎日飲んでいたので、順調に体重も増加傾向にあります。大体飲む時はスナック菓子を食べ、つまみを永遠と食べているのでそりゃ太りますよね。身体をねじった時に前よりも明らかにお腹周りのお肉が増えたなというのを実感し、“さすがにやばいな”と思い始めました。いきなり禁酒はできそうにないので、とりあえず休みの日以外の飲酒は控えようかなと思っています。夏場までに3キロ減を目標に頑張ります。以上決意表明でした（笑）（MK）

●先日1年ぶりにスキーに行きました。この冬は寒くて雪も多い印象だったので、たくさん積もっているだろうと思って行くと、道には全然雪がなく、スキー場も新雪は積もっていませんでした。（ちなみに昨年10年以上ぶりにスキーに行ったのですが、意外と体は覚えているもので怪我なく滑ることができ、今年もチャレンジ。）前回はウェアも板もレンタルしましたが、今回ウェアは自前のものを用意しました。やはり滑り出すと楽しく、また行きたい気持ちが高まったので、来シーズンは板も用意しようかと検討中です。せっかくウェアを買ったので、今シーズン中にあと1回は行きたいなあと考えています。（KM）

## 「キャリアカウンセリング」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

いつもご利用ありがとうございます。EAP 相談室カウンセラーの和田です。

さて、日本での EAP は職場のメンタルヘルス対策として広まったため、EAP =メンタルヘルス不調者が利用するイメージが定着している面があります。メンタルヘルス問題による生産性の低下は、会社はもちろん労働者にとって大きな問題ですが、健康問題と「働く」との関連を抜きにしては語れません。

EAP 発祥の地アメリカでは EAP は働くこと全般に関わる窓口ですし、自分自身のキャリアについてお話を伺う機会も少なくありません。キャリアカウンセリングでは、健康面よりも仕事の話に焦点が当てられ、今の困りごとに加えて「これから」に視点が向いています。「今」や今につながる「過去」の整理に向かう作業が多い通常のカウンセリングとは、この点が大きな違いだと思います。

「今後のことを考えたいけど今や整理しきれない」「今はわかるけど、少し先にどうしたらいいかわからない」とき、これからは視点をあてる3つの枠組み Will Can Must を使っていくと良いでしょう。

- Will : 今、あるいは今後、やりたいこと
- Can : 今、自分にできること
- Must : 求められていること、やらねばならないこと

漠然と感じていることを整理する際、これらについて書き出し、重なりやつながりがありそうかどうかを検討してみると良いと思います。can について書けなかったり（自己評価が不適切か低い？）、will が出てこなかったり（自分の興味関心が分からない？）、書き出す過程で自分の課題が見えることもあるものです。

普段の生活の中でも使えるキャリアカウンセリングの視点をお伝えしました。もちろんお一人でも進められますが、カウンセラーの質問を受けて考えることで、思考が進みやすくなることもあります。お一人で考えるには限界を感じる方は、ぜひ EAP 相談室でのキャリアカウンセリングもご活用ください。



※医療法人創和会は職員心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。



生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所  
〒710-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒710-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所  
〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20  
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒710-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)8207